

あまがさき版隣人祭りりんじんまつを開催！！

平成29年8月24日（木）に、あまがさき版隣人祭りを尼崎市立大物会館にて開催しました。第1期から第7期の人権啓発推進員や尼崎市議会議員をはじめ、34名が参加し、それぞれ持ち寄りの品々をもとに、楽しい交流の場となりました。また、初回好評につき、2回目を平成30年1月25日に地域総合センター塚口にて開催し、20名が参加しました。あまがさき版隣人祭りを契機に市内各地で地域住民交流として地域隣人祭りやふれあい喫茶が開かれ、交流の輪が広がりつつあります。



隣人祭りって何？

きっかけは「フランスのパリのど真ん中での孤独死」から始まりました。

1999年、死後1カ月を経過した高齢者の住居の片付けなどを経験した30歳のパリ市の職員が隣人との接触を避けている自分の生活を振り返り、自分の周りにも同じようなことが起きているのでは、とショックを受けました。そこで、「隣人を外に連れ出そう！」と決意し、ご近所同士が飲み物や食べ物を1品ずつ持ち寄って、おしゃべりするパーティー「隣人祭り」を開くことを考えました。招待状を近所の家への郵便受けに配って集まった100人以上の人からは、「こんなお祭りをなぜ今まで考え付かなかったのだろう」という声が次々に挙がりました。祭りでの話題は、子どもたちが通う学校のことから、ごみの出し方や夜遅くに騒ぐ住民への苦情まで、さまざまです。今まで話ができなかったことも、ワインでリラックスした雰囲気の中では、本音で話し合えるようでした。今ではフランスだけでなく、ヨーロッパ中に広がって280万人もの人が参加するイベントに発展しました。

孤独で悩まなくてよくするためには・・・

今求められることは、孤独で悩まなくてもいい社会を築くため、ご近所の助け合い精神を新しい形で復活させることが大事ではないでしょうか。

地域交流 イベント

4月から9月の人権啓発推進員会議および研修会①

4/13 第1回会議



テーマ「ご近所の底力」で快適な暮らし
地域コミュニティについて、阪神淡路大震災で被災した3地区を例に、従前コミュニティの成熟度と災害対応について学び、地域コミュニティについて意見交換を行いました。

4/28 第1回研修会 テーマ「隣人まつり」

隣人祭りのきっかけは、1999年パリ17区の区役所に勤める職員が区内で起きた老女の孤独死にショックを受け、ご近所同士が食べ物や飲み物を持ち寄っておしゃべりするパーティーを企画したのがはじまり。後にフランス中に波紋が広がり、世界の国々へと発展。隣人祭りが問いかける、一過性のお祭りから日常生活における相互扶助が大事であることを学ぶ研修となりました。

5/25 第2回研修会

テーマ「ダイバーシティ・マネジメントとソーシャル・インクルージョン」
ダイバーシティ（多様性）・マネジメントとソーシャル・インクルージョン（社会的包含）認識の在り方が変わってくる等について意見交換を行いました。



6/8 第2回会議 テーマ「人生、いろいろ」

DVD「人生、いろいろ」を鑑賞。徳島県の山間部にある上勝町で、高齢化が進む町において山で採れる葉っぱを利用し、ビジネスと町の活性化に成功した事例をもとに、地域において活用できる取組みがないか、活発な意見交換を行いました。

6/22 第3回研修会

テーマ「旅のことば～認知症とともによりよく
いきるためのヒント～」

高齢化社会が進む中、「認知症とよりよく生きる」ことにつながった工夫を紹介するヒント集をもとに、日常生活や会話で使うことが大事であることを学ぶとともに、推進員自身が抱えている問題や感じていることなど意見交換を行いました。

